

## 正常化の偏見

災害が迫っているのに避難しない人が多いのは何故か。これを読んでいる皆さんはその理由をご存じでしょうか。それは「正常化の偏見（または正常性バイアス、Normalcy bias）」と呼ばれているそうです。異常事態や都合の悪いことに対して“自分は大丈夫”、“どうせたいしたことはない”と過小評価したり無視したりして平静を保とうとする心の働きのことです。例えば、交通事故に遭遇する確率は年末ジャンボ宝くじの当選確率と比べてかなり高いにもかかわらず、宝くじには当たる気がするのに交通事故には遭わないと考えてしまうのもこの働きによるものです。災害が発生しそうで避難を迷っている時、正常化の偏見に加え“周りの人たちが逃げていない”、“これまでは大丈夫だった”という状況や経験が、避難しないことの正当性をさらに強化します。しかし、そんな時こそ自分が率先して避難することで周囲に避難を促すこと、そして避難が空振りに終わったときは“逃げたのに無駄になった”ではなく“被害がなくて良かった”と考え、次の災害に備えることが重要だと言われてます。少なくとも私は、この知識を得たことで避難に対する心構えが変わりましたし、そのお陰で命が助かることがあるかもしれません。そう思うと、知ることの重要性を改めて感じます。

（寒地交通チーム上席研究員 佐藤 昌哉）

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。